

平成23年度当初予算を家計に例えてみると

収入

区 分	平成23年度	平成22年度	増 減 額
月収 (市税などの自主財源)	41万6,700円	41万 800円	5,900円
親からの支援など (国・県支出金など)	15万8,800円	13万7,100円	2万1,700円
ローンでまかなっている額 (市債)	5万6,300円	7万4,100円	△ 1万7,800円
収入計(月額)	63万1,800円	62万2,000円	9,800円

支出

区 分	平成23年度	平成22年度	増 減 額
食費(人件費)	10万6,300円	10万7,800円	△ 1,500円
家族の医療費など(扶助費)	15万1,200円	12万9,000円	2万2,200円
ローンの返済(公債費)	8万4,100円	8万4,000円	100円
自宅の増改築・修繕費 (投資的経費・維持補修費)	6万8,100円	6万6,100円	2,000円
友人への援助金など(補助費 等・投資及び出資金・貸付金)	12万1,100円	13万8,500円	△ 1万7,400円
生計を別にしている家族への仕 送り(繰出金)	4万5,300円	4万1,600円	3,700円
光熱費など(物件費など)	5万5,700円	5万5,000円	700円
支出計(月額)	63万1,800円	62万2,000円	9,800円

平成23年度の市税などの自主財源を年収500万円(月収41万6,700円)として家計に例えて算出しました。(各年度の予算額を、約1,000万分の6にして月額を算出しました。)

収入

- ・ **月収(市税などの自主財源)**は、給料の基本給が上がったこと(市税収入が市民税減税が実施されないことなどによる増収)などにより、前年度から5,900円増加しました。
- ・ **親からの支援など(国・県支出金など)**は、**家族の医療費など(扶助費)**の支払いが増えたことなどにより、前年度から2万1,700円増加しました。
- ・ **ローンでまかなっている額(市債)**は、第三セクターの経営健全化等を図るための第三セクター等改革推進債の発行がなくなることや科学館理工館・天文館改築にかかる市債が減少することなどにより、前年度を1万7,800円下回りました。

支出

- ・ **食費(人件費)**は、事務の集約化や民間委託などによる定員251人の削減、諸手当などの給与制度の改定を行ったことなどにより、前年度から1,500円減少しました。
- ・ **家族の医療費など(扶助費)**は、病気などで働けない方にかかる医療費など(生活保護扶助費)や子どもにかかる医療費などの支払いが増えたことなどにより、前年度から2万2,200円増加しました。
- ・ **友人への援助金など(補助費等・投資及び出資金・貸付金)**は、交通事業を営んでいる友人の借入金に対する損失補償を行わないことなどにより、前年度から1万7,400円減少しました。